KYOTO INDUSTRIAL ASSOCIATION

京都工業会ニュース

基本理念 −21世紀を担うモノづくり集団−
京都からモノづくりイノベーション

新春号 2024 No.417

2024年　新年ご挨拶 …… 2～6

会　長	村尾　修
副会長	武田　一平
副会長	垣内　永次
副会長	上田　輝久
副会長	山田　義仁
副会長	松下　芳弘
副会長	錦織　隆
副会長	片岡　宏二
副会長	瀬川　晋弘

元日に発生しました能登半島地震、その翌日の航空機事故によりお亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々及び被害を受けらました関係各位に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を役員及び会員一同、心からお祈り申し上げます。

◀ 井尾賢司 代表取締役社長

会員企業トップにインタビュー〈35〉株式会社井尾製作所 …… 7
「～大正8年の創業以来、時代の変化に柔軟に対応！
高い技術力と提案力で顧客が求める確かな製品を提供し続ける～」

第35回目は、株式会社井尾製作所（右京区）に井尾賢司代表取締役社長を訪問。最新の工作機械を積極的に導入し、高度な機械加工などに取り組んでおられる井尾社長にお話を伺いました。

事業活動報告　★=新規事業

★外国人材マネジメントセミナー …… 9

生産年齢人口が減少しつつある中で競争力や生産性を維持するため、外国人材を雇用した後のマネジメントについて、先進事例などから学ぶ勉強会を3回シリーズで開催しました。

★エンジニアで無くても解る「モノづくり超基本」勉強会 …… 10

製造業に携わる者として自社製品を理解する上で欠かせないモノづくりの基本知識について、専門知識がなくても学べる勉強会を4回にわたり開催しました。

ものづくりにおけるデータ活用セミナー …… 11
モノづくりモチベーションアップ講座 …… 11
R&D問題懇話会1泊視察 …… 11
産学連携によるイノベーション推進講座2023 …… 12
モノづくりイノベーションネットワーク（MI-Net） …… 12
業務革新研究会 …… 12
購買調達革新研究会
開発設計革新（VE）研究会
白鷺クラブ …… 8
■蔦の会・先輩経営者 ㈱ホリゾン（堀 英二郎社長）訪問
■大分県産業視察
京都工業クラブ開催 …… 13
■「脱炭素の切り札として期待　~核融合発電~」
■「不確実な国際情勢と求められる人材」
■「2024年の経済見通し~混沌とする世界経済~」
ゴルフ同好会（ＫＩＧ）だより …… 15
京都府産業功労者表彰ご受賞 …… 16
京都中小企業技術大賞優秀技術賞ご受賞 …… 16
新入会員ご紹介 …… 16

シリーズ　魅力ある職場づくり～会員企業の取組紹介～

㈱洛北義肢 …… 14~15

令和４年度会員意見調査によると、『当面の経営課題』として多くの企業が「人材不足への対応」を一番に挙げられました。今年度は、社員の確保と定着に欠かせない要素の一つである“魅力ある職場づくり"をテーマに取り上げ、4回にわたってご紹介します。

2024年　年頭所感

会長　村尾　修

新年明けましておめでとうございます。まず初めに、元日に発生しました能登半島地震、その翌日の航空機事故によりお亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

昨年、2023年は３年に及んだコロナ対応がようやく終了し、社会、経済活動が急速に活発になりました。海外からの観光客も増え、街に活気が戻ってくる中、多くの人が笑顔で年末年始を迎えられたことでしょう。

しかし一方の世界情勢では、米中対立に加え、ウクライナ紛争は丸２年が経過してもなお、その出口が見えない状態です。さらに中東においてはイスラエルとハマスの紛争が突然勃発しパレスチナでの緊張が高まりました。

経済に目を向けると、こちらも米中分断という緊張状態が重しとなり、一部資源取引等において保護主義的動きが顕著になってきています。会員の皆さまにおかれましても難しいかじ取りが続いたのではないかと思います。

このような不安定な状況が続く中、2024年がスタートしました。世界的イベントとしてスポーツの世界では、パリでオリンピック・パラリンピックが７月下旬から開催されます。コロナ禍明けの大会ということもあり多くの観客が詰めかけ、盛大な大会になることでしょう。その一方で、地政学的リスクに加えてインフレや金利上昇、さらには年末にかけての急激な為替変動などが、今後、我々を取り巻く環境に大きな影響を与えるものと考えられます。また、アメリカでは大統領選挙があり、再び世界の注目を集めています。結果によっては、ますます先行き不透明となり混迷を深めていくことになるかもしれません。

このような環境の中、我々経済界としては、各社ができる精一杯の対応をとることにより、経済の停滞を防ぎ、むしろ活性化させていくことに注力していく必要があると思います。経済規模において世界第3位となって久しいですが、既にドイツに抜かれ、近いうちにインドの後塵を拝することになると予想されています。規模においては人口の関係もあり致し方ない面もありますが、各産業においては「さすが日本」と呼ばれるように、QCDをベースとした地に足の着いた活動を続け、日本が今後も世界の中で存在感を維持できるように今の私たちが努力していくことが重要ではないでしょうか。

2024年の干支は「甲辰（きのえ･たつ）」です。「甲（きのえ）」とは、固い殻にこもってまだ発芽しない状態を表し、「辰（たつ）」は「力強さ」や「成功」の象徴で、「辰年（たつどし）」は「変革」や「進化」の年と言われています。ここから「甲辰（きのえ・たつ）年」は成功につながるための努力が種子の中でどんどん育っていくような年とされ、積極的な行動と持続的な努力をすることで大きな「変革や進化」を遂げることができる年と言われています。そこで、2024年は、ニューノーマルな社会の中で、多様性を重視し、発想力と好奇心をもって、いかなる環境変化にも適応しながら、「大きな変革とさらなる進化」を達成する年としたいものです。

京都工業会では、昨年、20年ぶりに中長期活動の基本方針を全面的に改訂したところであり、この基本理念に即した様々な活動を展開し、会員の皆様が加入していて良かったと実感していただける運営に努めてまいります。

また、2025年開催予定の大阪・関西万博まで500日を切りました。万博の開催に向けて会員の皆さまにはご無理を申し上げますが、様々な取組に対しまして引き続きご協力を賜りますようよろしくお願いします。

結びに、会員の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

（㈱ジーエス･ユアサ コーポレーション　社長）

年　頭　所　感

副会長　武田　一平

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、コロナ禍でのあらゆる制限が緩和へと進み、これまでの日常を取り戻しはじめた１年でした。３月には６年ぶりとなるワールド・ベースボール・クラシック（WBC）が開催され、侍ジャパンが見事に優勝を果たし日本国中が熱狂しました。５月には広島でG7サミット（主要７カ国首脳会議）が開催され、高まる地政学的リスクや環境、気候変動･エネルギー、デジタル･人工知能（AI）等地球規模の課題についての議論が行われました。一方で経済の面に目を向けますと、世界的なインフレやそれに伴う金利上昇、不動産市場の低迷に端を発する中国経済の減速等、不透明な状況が続く1年となりました。

さて、京都工業会の皆様におかれましては、わが国の歴史と文化の中心地である京都で育まれた多種多様な伝統技術をDNAとして、独創的で先端的な事業を起業され発展させてこられました。様々な変化が起こる中で、今後とも互いの強みや知恵を活かし、切磋琢磨しながらイノベーションや新たな企業活動の展開に繋がればと願うところです。

当社は、あらゆる電子機器に搭載されるアルミ電解コンデンサをはじめ、EVシフトを支えるEV用急速充電器、V2Hシステム、xEV向けフィルムコンデンサや各種蓄電システム等、サステナブルな社会を実現する商品を社会に提供させていただいております。昨年はコロナ禍での規制緩和に伴い、リアルでの展示会も多く開催されました。中でも「Japan Mobility Show 2023」では次世代EVをはじめ、地球環境を意識した展示も多く、当社のブースにおいても太陽光やEVを活用したサステナブルな社会づくりへのソリューションを紹介いたしました。多くの方々にご来場いただき、皆様の環境問題への関心の高さを感じる事が出来ました。本年も、全世界で加速する「脱炭素」の潮流を受けながら、経営理念である「明るい未来社会づくり」への貢献と「より良い地球環境の実現」に向けてより一層力強く進んで参ります。

このような企業活動を展開していく上でも、京都工業会の活動方針に沿った産学公の連携をさらに深めていきたいと考えています。引き続き関係各位のご協力とご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

京都工業会会員皆々様にとって明るく輝かしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

（ニチコン㈱　会長）

年　頭　所　感

副会長　垣内　永次

新春のお慶びを申し上げます。

2023年は京都工業会の諸活動が殆どコロナ禍以前の状態に戻った年でした。会員企業の皆さまに於かれても、特に年後半は従前の人的往来や企業活動が戻ったものと推察致します。

2022年２月に勃発したロシアによるウクライナ侵攻はその後も終息が見えず、2023年10月にはイスラム組織「ハマス」によるイスラエル攻撃、その報復で、ガザ地区の戦争状態が継続するなど、極めて非人道的な戦争状態が毎日の様に報道される異常事態となっています。我々メーカーがグローバリゼーションという合言葉でバリューチェーンをグローバルに構築して来たのが、平和な時代の産物であった事に否応でも気付かされた数年です。

世界的に見ると2024年は「選挙イヤー」と言われ、特に１月の台湾総統選や、11月の米国大統領選挙の行方は世界経済や我々の仕事にも影響を与えるでしょう。日本の政局も落ち着きがなく、政治に携わる方々や行政の皆さまには、是非とも我々メーカーのレベルと同様の国際競争力と透明性の高いガバナンスを持っていただきたいものです。

IMFが10月に発表した世界経済の見通しでは、2023年から微減の2.9%（←3.0% 2023年最新予測）成長が予想されており、中国での成長率鈍化4.2%（←5.0%）の反面、インドは6.3%と前年並み、昨年京都工業会の海外視察で訪問したモロッコでは3.6%（←2.4%）の成長予想となっており、モロッコ視察を決断された村尾会長の先見の明に感服致します。

マクロでは総じて大きな成長因子が無い中、企業経営の観点では、機会は多くなくても成長の可能性がある案件への積極的な投資が必要な年になろうと思われます。謂わば、機会損失を招かない経営としての意識向上が問われるのではないでしょうか。

昨年の年頭所感でも申し上げた様に、会員企業の皆さまの現場での労働力不足、特に採用は更に深刻になると思われます。この傾向は今後も続くと考え、経営上のバランスを考えた省力化・自動化、DXへの投資が重要だと考えます。

VUCAの時代と言われるものの、元々、経営とは不確実な事業環境や不透明な将来予想のなかでベストを尽くすものです。短期的な景気変動や世界情勢に一喜一憂せず、自社のモノづくりやサービスの品質、競争力を高めて付加価値を上げるという本質からブレない様にしたいものです。

本年も会員企業の皆さまと共に、京都からユニークで力強い勢いを世界に向けて発信していきましょう。

（㈱SCREENホールディングス　会長）

年　頭　所　感

副会長　上田　輝久

新年明けましておめでとうございます。2024年の新春にあたり、皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2023年は５月に新型コロナウイルスが季節性インフルエンザと同じ感染症法上の５類に移行し、インバウンドも回復する年になりました。世界に目を向けますと、ロシア・ウクライナ情勢の終わりが見えない中、新たに、イスラエルとハマスの軍事衝突が起こり、地政学リスクの顕在化が深刻化した１年でした。一方で､明るいニュースとしては、WBC2023での侍ジャパンの３大会ぶり３度目の優勝、大リーグの大谷翔平選手の２度目の満票MVPやドジャースとの大型契約など、スポーツ界を中心にして日本人選手が活躍した年でもあり、将棋の世界では藤井聡太さんが前人未到の八冠を達成するという兎年にふさわしい「飛躍・向上の年」になりました。まさに、個人やチームが積み重ねてきた永年の努力が花開いた形になり、たゆまぬ「自己研鑽」と「チーム力」の両輪により偉業を達成することができることを実感した一年でした。

2024年は先行き不透明感が継続する中、干支は「甲辰（きのえたつ）」で、「新しい生命や物事が始まり成長する中、草木が成長して活力が旺盛になる年」です。過去の辰年ではどのようなことが起こったのかを振り返ってみますと、60年前の1964年は、アジア初となる東京オリンピックが開催され､世界初の高速鉄道「東海道新幹線」が開業した年でもありました。また､36年前の1988年は、青函トンネル、東京ドーム、瀬戸大橋などの大型建造物が竣工した年でした。私達は歴史を積み重ねながら、新たなことに挑戦してきたという歴史を感じます。

以前読んだ新聞記事に「四つのガク力」が紹介されていました。第一の「学力」は、知識を身につける能力、第二の「顎力」は、コミュニケーションの能力、第三の「額力」は、人の気持を察する能力、第四の「楽力」は、何事も楽しめる能力です。つまり、日々、様々なことを学びながら、それを実際に生かし、コミュニケーションを大事にしながら、相手を思いやり、何事も楽しみながら、成長していくことの重要性であり、昨年も京都工業会の海外・国内視察などで実感しました。

2024年は「成長して活力が旺盛になる」年です。京都工業会の様々な分野の知見を結集する「総合知」を活用して、「京都らしい伝統と革新の融合」を図ることで、これまでにない新しい価値を創造していくこと、及び、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

（㈱島津製作所　会長）

年　頭　所　感

副会長　山田　義仁

謹んで新春のお慶び申し上げます｡皆様にとりまして、希望に満ちた一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

昨年は、日本国内でも新型コロナウイルスに伴う様々な規制が解除されました。ようやくコロナ前の活気が戻り、京都にも多くの観光客が訪れ、街がにぎわいを取り戻しました。一方で、世界を見渡すと、依然として予断を許さないロシア・ウクライナ情勢、また、10月に発生したイスラエル・パレスチナ間の衝突、さらには米中間対立のさらなる激化など、新たな懸念や混乱も生じています。

このように、私たちを取り囲む環境は依然として混沌としており、未来を見通すことは今まで以上に難しくなってきています。そのような中においても、新しい年が幕を開け、私たちの前には大きな可能性が広がっています。

例えば、AIやロボティクスのさらなる技術進化は産業界における生産性・品質向上をもたらし、従来の製造工程の効率化や労働力不足の解消など、よりよい社会の実現につながります。また、サステナビリティへの関心の高まりを受け、環境負荷の低減や循環型社会の実現に向け、製品の製造や販売に伴うCO_2排出量の削減、再生可能エネルギーの導入や、リサイクル・リユースの推進など、資源の循環利用などに対する企業への期待が非常に高まっています。

このような時代のニーズに応え、我々が新たな領域・分野・課題に挑戦することが、京都経済界のさらなる発展に繋がると信じています。企業が率先して社会的課題を解決することは、社会の持続可能性を高めるだけでなく、企業の新たな価値創造にもつながります。

本年も引き続き、私は京都工業会副会長として、京都企業の発展に向け一層の努力を重ねてまいります。そのためには会員企業の皆様方のご理解とご協力が不可欠であり、今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（オムロン㈱　会長）

年　頭　所　感

副会長　松下　芳弘

新年明けましておめでとうございます。2024年の新春を新たな気持ち、決意で迎えられたことと思います。昨年５月に新型コロナ感染症が５類へ引き下げられたことで、世の中、社会はアフターコロナに移行し、すっかりにぎわいが戻ってきました。事業活動もWEB会議等の便利なツールは継続使用しながらも対面活動が復活し、コロナ禍前のスタイルに戻れたことをたいへんうれしく思います。直接会うことの大切さを再認識しました。

昨年は中古車販売会社による保険金不正請求や芸能プロダクションでの人権問題等、企業不正・不祥事が相次ぎました。ガバナンスの機能不全が指摘されていますが、コンプライアンスは企業の基盤であり、これを毀損する会社は存続できません。当社では「コンプライアンスを踏み外した行為から生まれる売上げ、利益は１円たりとも要らない」ということ、「SEQCDD（Safety：安全・Environment：環境・Quality：品質・Cost：コスト・Delivery：納期・Development：開発）で勝負する」ということを社員には常々伝えています。安全とコンプライアンスを基本に据え、お客様視点で仕事の基本と進め方を見つめ直し、また現場主義の思考と行動で、全体最適・部分最適のバランスを意識して仕事をしたいと思います。

米中対立、ロシア・ウクライナ戦争に続き、イスラエル・ハマス紛争と国際情勢が緊迫しています。また、エネルギー・原材料価格の高騰、部材調達難、円安傾向は継続しており、先行き不透明な状況が続いています。一方、2050年カーボンニュートラル宣言、脱炭素化、再生可能エネルギー・分散型エネルギーといった環境・エネルギー分野、EV拡大、半導体増産投資・パワー半導体の需要拡大、DX・AI・ICT等、ビジネス拡大のチャンスもあります。外部環境、市場、お客様への動向に迅速かつ適切に対応することにより、マイナス影響を最小限に留め、プラス影響を最大限取り込むことにより、京都工業会関係各社の成長発展につなげていかれることを願っています。

会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

（日新電機㈱　社長）

2024年　年頭所感

副会長　錦織　　隆

新年あけましておめでとうございます。

昨年はCOVID-19がやっと５類に移行して　比較的自由に行き来が　できるようになり　経済活動も上向いているようになってきました。

世界を見ると　COVID-19以上に恐ろしい出来事が次々と勃発し【どうする　日本!!】状態です。

人間が引き起こしたと言われている　CO_2による地球温暖化問題、宗教戦争、エネルギー争奪戦争、領土民族戦争だけでなく　自然問題を見ると　近年　日本近辺でも地震が頻発しています。

尾池和夫元京都大学総長は「2038年ごろに南海トラフの巨大地震が起こる可能性がある」と仰っておられます。津波の様に押し寄せて来る問題に対応すべく　BCP（Business Continuity Plan）を急ぎ拡充しなければなりません。

生成AIが話題に上る事が多く毎日のようにTV、新聞紙上を賑わしています。

弊社の創業者は機械式の手回し式計算機の開発に従事しておりましたが20桁の加減乗除しかできない機械でした。

私が学生の頃はパンチカードを大きなバッグに詰めて東京大学のコンピューターに通っている学生を多く見かけました。時代が大きく変わり　コンピューターが人間を支配するかもしれないという心配をしなければならない程になって来ました。

人間が作り出した　意思、感情を持たない　記憶力抜群の超高速計算機です。

17世紀のフランスの哲学者、科学者、数学者でもあったブレーズ・パスカル（Blaise Pascal）は『人間はひとくきの葦にすぎない。自然のなかで最も弱いものである。

だが、それは考える葦である。よく考えることを努めよう。われわれの尊厳のすべては、考えることのなかにある。われわれは　そこから立ち上がらなければならない。』と言っています

高度に発達したコンピューターを自分の頭脳の様に使い　新しい知恵を生み出すのは私達人間です。

私達人類が　豊かで安心して暮らせる世界を作り出すために　産業界に身を置く者として知恵と汗をかこうではありませんか!!

（㈱日進製作所　会長）

年　頭　所　感

副会長　片岡　宏二

新春を寿ぎ謹んで御挨拶申し上げます。会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

2023年は、2020年初から続いたコロナウィルス感染が５月に５類に移行された事により、ようやく私達の日常生活が戻って来たことを実感出来た年であったかと思います。

一方で、夏頃から季節外れのインフルエンザが流行し始め、11月にはプール熱などこの３年は鳴りを潜めていた感染症が急拡大し、全国の小・中学校が学級閉鎖になるなど大きな影響を与えました。マスクや手指消毒の有効性を改めて実感すると共に、季節性と思われていたインフルエンザやプール熱が年中流行することも、やはり異常気象が原因のひとつであるように思います。

2023年の夏は日本全国で軒並み記録を更新し1981年の統計開始以降、最も高い平均気温（平年差+1.76℃）となりました。この猛暑は世界でも同様で、エルニーニョ現象の発生による太平洋広範囲での海面水温の上昇により、地中海沿岸や米国南部では最高気温が45℃を超えるなど、平年を大きく上回りました。加えて、２月のトルコ･シリア、９月のモロッコに於ける大地震に関しても、地球規模での災害対策、環境保全への取組みの重要性について今一度考えなければなりません。

また、依然として収束しないロシアのウクライナ侵攻は、５月に広島で開催されたG7首脳会議にゼレンスキー大統領も出席し、ロシアへの制裁強化とウクライナの早期平和実現への首脳声明が発表されましたが、膠着状態が続いています。更には10月、ハマスによるイスラエルへの大規模攻撃が起こり、イスラエル軍はガザ地区へ空爆で応酬し病院などに大きな被害が出ました。世界平和を謳う一方で、日常的に戦争が行われています。世界全体が戦争を糾弾し、戦争を助長する商取引を行わないことが必要です。

明るいニュースとしては､やはりスポーツ･文化でしょうか。３月のWBCでは侍ジャパンが３度目の優勝を果たし、栗山監督の名采配が賞賛されました。バスケットボールW杯では、日本チームが決勝へ進出しパリ５輪への出場権を獲得しました。プロ野球では阪神タイガースが59年ぶりに関西対決となった日本シリーズでオリックスバッファローズを制し、38年ぶりに日本一となりました。その他、将棋の藤井聡太さんは八冠全てのタイトルを初制覇し、AIにも予測できなかった一瞬の冷静な判断力が話題となりました。

2023年はコンプライアンス問題が話題となった一年でもありました。当社の社是は｢我が社は､誠実な心をもって｣から始まります。本年もこの社是に基づき、誠実な心をもって社会に貢献する製品の開発・生産を行いたいと考えております。

最後になりましたが、2024年が平穏な一年となりますこと、また、会員企業各社様の益々のご発展ならびに皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

（㈱片岡製作所　会長）

年　頭　所　感

副会長　瀬川　晋弘

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年をふり返りますと、５月にコロナがインフルエンザと同じ５類扱いになったことで急激に人の動きが活発になり、GWは各観光地で賑わいを見せ、円安もあって海外からの来訪者も大幅に増加しました。

製造業にとって大きな影響を及ぼした半導体、ハーネス、電子部品などの需給のひっ迫による長納期の問題、コストアップは徐々に改善されましたが、引き続きエネルギーコストの上昇、原材料価格、物流費の高騰、円安により食品関係を中心に生活に大きく影響しました。

技術面ではAI、IoT、DXが更に進化し企業にとってはこれらの活用が生産性向上、効率UPにつながります。

世界に目を向けますとウクライナ紛争は終わりの見えない状況になっており、中東イスラエル、ロシア、中国、北朝鮮の動向が懸念されます。

昨年は関東大震災発生から100年となりTVでも取り上げていましたが、自然災害に対する備えの重要性を改めて感じた次第です。２月にトルコ・シリア、９月にモロッコで地震が発生し､夏は世界各地で最高気温を記録、山火事の発生、豪雨による被害が相次ぎました。

スポーツ界は大いに盛り上がりました。３月に野球ファン待望のワールドベースボールクラシックで見事優勝、11月にはタイガースが38年ぶりに優勝しオリックスとの関西対決となり大きな経済効果がありました。その他、男子バスケットボールでパリオリンピック出場権を勝ち取り、ラグビーのワールドカップでは惜しくも決勝リーグには進めませんでしたが世界の強豪相手に善戦し着実にレベルが上がっていることを実感しました。

中小企業見学会は、訪問先企業様のご協力によりすべてリアル訪問が可能となりました。尚一層学びの多い見学会にしたいと考えています。

2024年の干支は「甲辰（きのえ・たつ）」。「春の日差しが、あまねく成長を助く年」になるそうです。

「京都工業会」会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせて頂きます。

（旭光精工㈱　社長）

■会員企業トップにインタビュー〈35〉

大正8年の創業以来、時代の変化に柔軟に対応!
高い技術力と提案力で顧客が求める確かな製品を提供し続ける

株式会社井尾製作所 プロフィール
創　業：1919年(大正8年) 法人化：1965年(昭和40年)
資本金：3,000万円　社　員：45人
住　所：京都市右京区山ノ内養老町8-13
業　種：油圧機器（バルブ、ポンプ、モーター）、真空機器（ポンプ、装置）、その他精密機械器具

株式会社井尾製作所

代表取締役社長　井尾　賢司氏

最新の工作機械を積極的に導入し、高度な機械加工などに取り組んでいる株式会社井尾製作所の井尾 賢司社長にお話を伺いました。

―創業の経緯を教えてください。

大正８年、創業者である曽祖父は、岐阜から職人になるために京都へ来て、錺（かざり）職人（真鍮や銅などの金属に“たがね"と呼ばれる道具を用いて装飾と補強を兼ね備えた文様を刻む職人）としての修行後に独立し、今の七条京阪の少し北側の地で金属工芸品を作る彫金製造会社を創業しました。

―創業後の事業の変遷を教えてください。

祖父の代の昭和12年から軍需工場になりました。工芸品は贅沢品であり世の中が平和で豊かでなければ売れません。軍需産業への進出を狙ったのではなく、それしかすることがなかったのだと思います。

終戦後はまずインフラが必要でした。そこで日新電機様から重電関係の仕事をいただいていたようですが、インフラが整うと仕事が減っていきました。次にどうしようとなったときに、父が島津製作所様とのご縁を得て仕事をいただけるようになりました。

曽祖父、祖父、父ともに、次はこんな時代だからこれだという先見の明をもっていたようには思えません。このままでは仕事が先細るという危機感があり、それをやるしかなかった時に、それに対応できる技術があったということです。

私が社長になってからは、工作機械が多ければ生産量も上がっていきますので、売上の増加を目指して工作機械や測定機器をかなり増やし、技術提案型企業として高度な機械加工などに挑戦しています。

―貴社の理念「品質は信頼の証」についてご説明いただけますか。

理念を明文化する前から、品質に重きを置いてきました。当社は基本的に後発ですからいわゆるいい仕事は回ってこないんです。非常に難しいか、価格がすごく安いかのどちらかしかありません。ただ非常に難しいものはまず形にならず、想定される品質にもなりません。図面にはそもそも加工が絶対無理なものもあるので、当社から“ここはこうすれば加工できる”などと図面の問題点を指摘し提案をしていると、“あの会社は嫌がらないでやってくれる”という流れになります。品質には広い意味があり、誰もが敬遠するようなものを形にしていくと、設計者から“次からあそこに頼んでくれ”という話が出てきて、それが信頼に繋がってくると思います。もう１つの安さについては、安い製品にあまり手をかけられず最低限のことは守って製造するしかありません。

―環境対策にも積極的ですね。

環境問題に取り組まないと今後は人材も仕事も取れず、社会性のある会社でないと生き残れないと思っています。当社の活動、製品やサービスなどに係わる環境負荷を低減するための環境マネジメント活動を積極的に推進しています。ただ、すごいことをしているわけではなく、最低限のことに取り組んでいるだけです。また、KES認証やISO認証の取得などにより社会に貢献する姿勢を内外に示すことも必要だと思っています。

―新事業は産学連携で進められているのですか。

私は京都大学工学部の出身で、当社で製造を開始した高解像度フラットヘッドスキャナーや超高画質パノラマカメラは、私が所属していた研究室の恩師が近年取り組んでおられた研究成果がベースです。先生から試作品を作ってほしいと声がかかり、産学連携というよりは個人的に頼まれて作りました。先生がご自身の研究成果を活かしたいと考えておられたので、私に手伝えることであればやらせていただこうとの思いがきっかけで、先を見据えて戦略的に取り組んだわけではありません。

新開発したスキャナーやカメラは、文化財の超高精細なデジタル化が可能で、まずは文化財の情報収集や分析、復元などに役立てられるようですが、用途が広がることを期待しています。

―今後の目標をお聞かせください。

若者が就職を考えた時に、選んでもらえるような会社にしたいです。私は、月～金の５日間・毎日８時間だけ働いて人より技術が身に付くことは絶対ないと思っています。人より抜きん出るのは、元々素質を持っている人は少ない時間でも良いかもしれませんが、そうでない人は絶対に時間をかけないとダメだと思います。

そこで当社では土曜日を隔週勤務とし、その時間で技能に差をつけようと考えており、これを理解してもらえる人に来てほしいと考えています。そのためには当社としても給与水準を同業他社より高くしなければならないと思っています。“自分にスキルがつけられて生活も充分やっていける”と思ってもらえる会社にしたいです。

白鷺クラブ活動報告

10月例会　蔦の会･先輩経営者（堀 英二郎氏）から学ぶ

日　時：令和５年10月26日（木）15：00~17：00
参加者：23名（会場15名、オンライン８名）

本会常任理事・白鷺クラブの先輩である蔦の会の㈱ホリゾン 社長の堀 英二郎氏が経営する本社びわこ工場を訪問。創業からの歴史や経営方針、同社の取組「モノづくりに拘るDNA」についてご講演いただき工場見学も行った。

<講演内容>

大学で教鞭を執っていた先代は、戦後、「メカとエレキの融合が必要」と考え、学校向け教材機器をOEMで製造する太陽電機研究所を設立。多品種少量生産で利益を出すために内製化の方針を立てた。その後オイルショックでOEM先から全注文キャンセルされるという倒産の危機を乗り切り直販を開始。設備投資により内製化率を高め1976年にびわこ工場を稼働。５年後には貿易会社を設立し輸出を始め、現在100ヶ国以上へ販売し、輸出比率60%以上を達成している。製造はびわこ工場のみで、設備投資、スマート工場化の加速と合理化を通じて生産性向上を行っている。

<先代からの大切にしている教え>

1　人間万事塞翁が馬（ピンチはチャンス）
2　実れば実るほど頭を垂れる稲穂かな（謙虚な姿勢で人と接することが大切・社員の態度も丁寧に）
3　健康は最大の財産（健康経営優良法人取組中）

社員の４割が女性、毎年10名程の新卒採用を行うが地元出身者が８割、家族や親戚で勤務する人も多く、地域の雇用創出に大いに貢献。照明やデザインにもこだわり、サロンとしても利用されている洒落た社員食堂や、屋上テラスから望む伊吹山と琵琶湖の絶景を楽しめるなど社員を大切にする堀社長の思いを強く感じる見学会であった。

社員食堂・奥がサロン

11月例会　大分県産業視察

日　時：令和５年11月16日（木）～ 17日（金）
参加者：17名

本年度の産業視察は、鉄鋼、石油、科学、半導体、電気、自動車、精密機器など幅広い分野の産業がバランスよく集積し、製造品出荷額等では 福岡県に次いで九州2位につけている大分県を訪問。同県のモノづくり優良企業を訪問し研鑽を積むとともに、会員間の一層の交流を図った。

１日目は、本会会員企業の㈱京都製作所の100%子会社の㈱京製メックと、半導体製品製造の大分電子工業㈱を訪問。２日目は製鉄関連機械の部品加工・組立を主力に、一般産業機械・船舶部品・機械メンテナンス・半導体製造装置部品製造から宇宙関係まで事業を手掛けるニシジマ精機㈱大分工場、家庭用紙製造販売に加え、IoT活用で最適な設備稼働率を実現している大分製紙㈱及びむぎ焼酎「いいちこ」で有名な三和酒類株式会社が運営する安心院葡萄酒工房を訪問し見聞を広めた。

◇㈱京製メック（国東市）

包装機械･自動組立機製造等を受注生産方式で手がけ、機械設計、電気設計、部品加工、塗装、組立、電気配線、ソフトデバッグ、調整、検査、出荷を全て自社で行い京都製作所グループの主力生産工場として稼働しており、2022年度は257台の機械を出荷。高度な①開発技術力②生産技術力・開発スピード　③エンジニアリング力で同業他社を圧倒する存在となっている。

◇大分電子工業㈱（日出町）

主に自動車やテレビ・パソコン・プリンター等の電子部品に使用される「ロジックIC」と呼ばれる半導体製品を製造。生産性改善を目的に自社開発のシステムを導入後、材料間違い、配線間違いゼロ件を10年以上継続。新分野となる、ビデオカメラ・スマートフォン・監視カメラ等の重要部品である「イメージセンサー」への新規参入を行い、世界No.1の半導体製造の後工程工場を目指している。

◇ニシジマ精機㈱大分工場（大分市）

ニシジマ精機㈱にて

製鉄関連機械の部品加工・組立を主力に、一般産業機械、船舶部品、機械メンテナンス、半導体製造装置部品製造を手掛けている。工場の３Kのイメージを払拭するイメージ戦略を推進し、事務所、休憩室を東京のIT企業に負けない仕様で作り、工場は白い床材で毎朝モップがけして社長が裸足で歩いて確認するなど清掃を徹底。九州工業大学と大分県内企業4社で地球低軌道環境観測衛星を共同制作の主力メンバーとして参画、小学校から大学まで会社見学、インターンシップの受入や子供食堂支援事業活動を展開するなど、地域での存在感を高め、社員が誇りを持って働ける会社を目指し邁進している。

◇大分製紙㈱（大分市）

大分製紙㈱にて

家庭用製紙製造販売で全国シェア７%。多品種小ロット生産で、吸水性に優れたエンボス加工技術を武器に他社との差別化戦略で高付加価値化を推進している。また、業者に丸投げすることなく自分たちで考えたIoTを導入。先端技術を活用することで製品、プロセス、戦略を変革することに取り組んでいる。

今回訪れた4社とも自社の強みを伸ばし、躍進に繋げているノウハウを直に学ぶことができる視察となった。

外国人材マネジメントセミナー

生産年齢人口が減少しつつある中で、人材確保が各企業にとって重要な課題になっている。そこで、管理部門・製造部門を問わず、外国人材を社員として雇用する時点から長く働いてもらうまでのマネジメントについて、現在の動向や今後の見通し、よくある課題や陥りやすい問題などを専門家や企業事例から３回シリーズで学んでいただいた。本セミナーは来年度も開催を予定している。

[受講者の声]

・弊社ではまだ外国人材の受入がありませんが、将来的に受け入れることになった際に事前に留意すべきことが整理された状態で理解出来ました。（表面加工）
・外国人の受入をきっかけに暗黙知を形式知に変える動きが安全面から進みだしたというお話が印象的でした。（電子機器製造）
・各企業の悩みであったり、採用に関する実情を聞くことができ大変興味深いセミナーだったと思います。（支援団体）
・海外の大学からのインターンシップ生受入に関して非常に興味深くお聞きし、当社でも実施可能かどうか検討してみたいと思いました。（電子機器製造）

第1回（令和5年9月27日）　（参加者：24人）

テーマ①:「人手不足対策について ～外国人労働を中心に～」

講　師：京都労働局　局長　赤松　俊彦 氏

内　容：減少する日本の労働人口の変遷と見通し、外国人の就労状況、外国人が日本で働くための資格・条件、外国人労働者の受入に関する検討の方向性など

テーマ②:「日本企業に就職を希望する留学生の動向」

講　師：立命館大学　キャリアセンター 次長　辻井　英吾 氏

内　容：京都府内の大学で最多人数の留学生が学ぶ立命館大学における留学生の卒業後の進路、就職希望学生の就活状況や採用動向、留学生の採用に際して知っておいて欲しいことなど

テーマ③:「ジェトロの外国人材支援制度の紹介」

講　師：独立行政法人日本貿易振興機構　大阪本部 高度外国人材活躍推進コーディネーター 清水　一憲 氏

内　容：外国人材を雇用している企業が外国人に期待する効果（①労働力不足の解消、②海外市場の営業・交渉力の向上、③社内の国際化）、ジェトロによる支援事業（外国人材育成・定着講習会、ジョブフェア、専門相談）など

第2回（令和5年10月25日）　（参加者：23人）

テーマ①:「入社した技能実習生・特定技能者が定着する取り組み」

講　師：協同組合関西経済交流会 専務理事　荒木　陽治 氏 監理担当者　石橋　桃子 氏

内　容：日本人と技能実習生・特定技能者の採用時及び採用後の違いと留意点、技能実習生・特定技能者の成長に向けたスキルアップ、日本語教育、上司や同僚への異文化・多様性への理解促進など

テーマ②-（1）:「技能実習生が活躍している企業事例」

講　師：株式会社オーランド 代表取締役社長　水田　健二郎 氏

内　容：ミャンマーからの技能実習生２名を約１年半前から受け入れている実績から、採用から現在までの流れ、来日前の受入整備、日本に馴染んでもらうための取り組みや仕事・生活面のケアなど

テーマ②-（2）:「技能実習生が活躍している企業事例」

講　師：山分物産株式会社 代表取締役社長　松井　貞広 氏

内　容：約８年前から技能実習生の受入を開始し、現在はカンボジアとベトナムから計5名を受け入れている実績から、日本語の不得意な実習生にしっかりと伝えるコミュニケーション方法、日本での仕事・生活を円滑にしてもらうための取組など

第3回（令和5年11月29日）　（参加者：23人）

テーマ:「外国人社員が活躍している企業事例」

外国人を雇用している企業3社の経営者・役員から実例に基づく、以下の話を伺った。

（1）講　師：サント機工株式会社 代表取締役社長　山下　敬史 氏

内　容：技能実習生の採用からスタートし、一度帰国した元実習生を正規採用し、その数が増加、外国人社員から紹介を受けた同社員血縁者の採用（現在、ベトナム人19名）をされてきた状況や課題など

（2）講　師：株式会社ホリゾン 常務取締役　堀　英陽 氏

内　容：日本で働いている外国人労働者のキャリア採用（契約社員採用⇒１年後に正社員登用）されている状況や課題など（現在、ベトナム人22名、インド人２名、韓国人１名）

（3）講　師：三幸総研株式会社 代表取締役社長　古澤　志津夫 氏

内　容：当社ベトナム現地法人の従業員の受け入れ（これまで３カ月の本社研修を実施）状況。また令和６年春からベトナムの現地大学３年生をインターンで１年間受け入れ、双方が良ければ１年後（卒業後）に採用する仕組みや今後の取組予定など

エンジニアで無くても解る「モノづくり超基本」勉強会

京都のモノづくり企業に勤める社員の皆様を対象に、製造業に携わる者として自社製品を理解する上で欠かせないモノづくりの基本知識について、専門知識がなくても学べる勉強会を各分野の第一線で活躍されている企業や研究所の方々を講師に迎え４回にわたり開催した。

第１回「半導体はなぜ“産業の米"と呼ばれるのか?～半導体の仕組み、用途、今後の展望～」

日時：令和５年７月27日（木）　参加者：28人
講師：㈱SCREENホールディングス
顧問　灘原　壮一 氏

◇そもそも半導体とはどういうものか

トランジスタなど半導体素子単体やそれらが集積したIC（集積回路）を総称した電子部品のことであり、条件によって任意に電気を通したり通さなかったりすることができる物質である。その製造は、ウエハ工程、設計工程、前工程（半導体回路形成）、後工程（パッケージング）、最終検査を経て完成する。

◇半導体の進化の歴史

微細化などを通じて性能を飛躍的に改良してきた技術は、例えば直径300mmウエハ（半導体素子製造の材料である円盤状の板）を東京都の面積に見立てると、最先端の半導体製造では、都内に1.9mm以上のゴミが30個以下になるまで洗浄したウエハを使って製造しているレベルになっている。

◇半導体を巡る世界の動き

1990年代までは半導体産業をリードしていた日本の企業が凋落を辿った理由やグローバルに競い合っている各国企業の生産活動状況、予想される今後の見通しに至るまで幅広く講義をしていただいた。

第２回「蓄電池の進化がもたらした産業発展～蓄電池の仕組み、用途、今後の見通し～」

日時：令和５年８月24日（木）　参加者：31人
講師：㈱ジーエス・ユアサコーポレーション
研究開発センター　戦略企画室長　稲益　徳雄 氏

◇電池の種類

大別すると化学電池と物理電池があり、主な化学電池に一次電池（乾電池など使い切りの電池）と二次電池（充電すれば繰り返し使える蓄電池）がある。

◇二次電池（蓄電池）について

化学エネルギーを電気エネルギーに変換することで充放電を可能とする蓄電技術で、現在は液系リチウムイオン二次電池が主流となっている他、ニッケル･水素電池がある。

◇リチウムイオン二次電池

リチウムイオン電池は、正極と負極を持ちその間をリチウムイオンが移動することで充放電を行う電池である。正極と負極はそれぞれリチウムイオンを蓄えられるようになっており、このリチウムイオンが電解液の中を通って正極、負極と移動することで、エネルギーを貯めたり使ったりすることができる。

◇電池開発の状況と今後の見通し

今後、電解質が液体ではなく、固体で液漏れが起こりにくく耐久性に優れた全固体電池などの次世代蓄電池へと進化することが見込まれる。蓄電池技術は日本が優位であるが、ビジネス面で優勢に立つ中国が技術面でも猛追している。高性能蓄電池の実現に向けては、材料、組み合わせ、生産技術等の革新が課題である。

第3回「技術革新を促進する新素材開発～各材料の特性と用途、新素材開発の展望～」

日時：令和５年９月20日（木）　参加者：24人
講師：地方独立行政法人 京都市産業技術研究所
研究長　知恵産業融合センター長　永山　富男 氏

◇三大材料

①【陶磁器、セラミックス】縄文時代のやきものから始まり、気温・温度変化による性質変化があまりなく電気を通さない特徴を生かし、器や建築部材、碍子などに使われてきた。現在は高度に精選または合成された原料粉末を用いて製造するファインセラミックスとして、高精密なパソコンのCPUや自動車のエンジン部品等幅広く使われている。

②【金属】道具を作る材料として、青銅器時代に続く鉄器時代に現代文明の基礎を築いた。産業革命による鉄需要拡大に伴って製鉄技術が発展し、合金鋼、ステンレス鋼、さらにはアルミニウムといった用途に合わせた特殊金属の開発が進んだ。

③【プラスチック】電気を通さず腐食しにくいが熱に弱い。しかし硬度や耐熱性、強度の調整が可能。プラスチックには、加熱する度に軟化する「熱可塑樹脂」と、加熱すると硬化し冷えたら再加熱しても軟化しない「熱硬化樹脂」がある。こうした特徴を生かした素材に、ペットボトルなどに使われるポリエステル、スポンジタワシなどに使用されているウレタン樹脂などがある。

第4回「こんなに使われている、モーターの世界～モーターの仕組み、用途、今後の見通し～」

日時：令和５年10月18日（水）　参加者：27人
講師：ニデック㈱
生産技術研究所　副所長　豊嶋　直穂子 氏

◇モーターの主な種類と仕組み

電気の流し方や作り方で大別され、３つに分類できる。

①【ブラシ付きDC（直流）モーター】電池など直流電源で駆動する。モーター内部に整流子と「ブラシ」と呼ばれる電極を設け、その二つを接触させ機械的に電流の向きを切り替えることでモーターを回転させる。安価で信頼性が高いことから、最も多く使われている。

②【AC（交流）モーター】家庭用電源など交流電源で駆動する。固定子と回転子で構成されており、交流電源によって固定子に磁界を発生させ、回転子に誘導電流を流すことで回転する。

③【ブラシレスDCモーター】ブラシ付きDCモーターの欠点であったブラシと整流子を不要にし、電子回路を使って電気的に電流の切り替えモーターを回転させる。寿命、メンテナンス性、静音に優れている。効率が高く省エネである。

◇これからの行方

モーターは大小様々な製品が作られ、冷蔵庫や洗濯機、扇風機、スマートフォンやパソコン、自動車、産業機械、医療機器、OA機、ロボットなどの見えない場所でも幅広く使用されている。今後も、人工心臓用ポンプや電動飛行機をはじめ、用途は広がると考える。

ものづくりにおけるデータ活用セミナー

日　時：令和５年 11 月６日(月)
参加者：15 名
テーマ：「DX 推進による全体最適実現へのシナリオ」
講　師：日新電機㈱　執行役員 情報システム部長
高橋　浩史 氏

近年、急速なデジタル技術の革新により、生産現場等の可視化（IoT）が進む中、その根幹となるデータ活用の重要性が高まっている。

このような中、本会ではこれからの課題に対し、昨年度から「ものづくりにおけるデータ活用セミナー」を開催している。

＜講演の概要＞

高橋氏は、「個別設計生産形態の企業である当社では、受注（需要）＝負荷（供給）になりがちで、負荷の平準化や計画生産など､社内のリソースの有効活用がされず、どうしても、部分最適に陥るという慢性的な課題を抱えている。

このような中、現在、業務革新（プロセス改革）、生産革新（JIT・IoT による作業支援）、事業革新（業務領域の拡大）を３本柱に、DX による全体最適の実現を進めている」と述べられ、特にデータの有効活用の重要性を強調された。

ストップ！未成年飲酒・飲酒運転。妊娠中や授乳期の飲酒はやめましょう。
お酒は楽しく適量で。のんだあとはリサイクル。サッポロビール株式会社

モノづくりモチベーションアップ講座

日　時：令和５年 11 月 17 日(金)
参加者：11 名
テーマ：「従業員１人ひとりがパフォーマンスを発揮できる組織づくりのポイント」
講　師：NPO法人マザーズサポーター協会　認定講師
菅野　美樹 氏

本セミナーでは､まずコミュニケーションの土台をおさえ、その後、良好で生産性のあるコミュニケーションの取り方を 1 on 1 やグループワークなどの実戦形式で学んだ。

＜コミュニケーションの摂理＞

私たちはみな違うが、私たちはそれを忘れてしまうことにより、人間関係の悩みが生じる。より良い人間関係、組織をつくるためには、①過去と他人は変えられないが、自分と未来は変えられる、②人はみな違う、③コミュニケーションは伝わったことがすべてである（何を、ではなく何が伝わったか)、ということを意識し、コントロールできる範囲を知ることから始めるとよい。

＜コントロールできることを腹に落とす＞

コントロールできるもの　①自分の行為・行動　②自分の思考　③未来

コントロールできないもの　①自分の感情　②自分の生理反応　③他人の行為・行動　④他人の感情・生理反応　⑤過去

ただし、コントロールできなくても影響を与えることは可能。コミュニケーションとは究極、相手が変化を起こすよう関わること。

R&D問題懇話会1泊視察

日　時：令和５年 11 月 16 日～17 日
参加者：17 名

コロナ感染拡大で実施できていなかった１泊視察を４年ぶりに岐阜県内で開催した。

１日目（11/16）は、1920 年の創業以来、「BI―TECH：伝統技術×新技術」をビジネスモデルに、常に独自ブランドを追求している鍋屋バイテック会社を訪問。近年、注力しているマイスター制度や web マーケティング及び工場の自動化への取り組みをご紹介いただき、デジタル化や社員意識の向上対策を学んだ。

２日目（11/17)、午前中は、1993 年の設立以来、「地域産業の高度化」を使命に、システムインテグレーション事業や研修人材事業を展開する㈱ VR テクノセンターを訪問。DX 化、ロボット化及び各種研修事業の取り組み事例から、デジタル技術の方向性やデジタル人材の育成方法への理解を深めた。

午後は、1935 年の創業以来、「人と機械をアイデアで結ぶ」を基本に、標準機械部品のリーディングカンパニーとして躍進する㈱イマオコーポレーションを訪問。LCA（ローコスト・オートメーション）を中核とする治具化、作業の段取り改善の推進事例から、生産性向上へのヒントを得た。

この２日間を通し、訪問先の取組事例はもちろん、懇話会メンバー間の交流も深まり、充実した１泊研修となった。

産学連携によるイノベーション推進講座2023

「継続的な新規事業の創出
～事業を生み出し続けるプラットフォーム～」

日　時：令和５年 11 月 20 日
参加者：80 名
テーマ：「イノベーションへのチャレンジを組織で進める“型”
～オムロンの事業創造プロセス～」
講　師：オムロン㈱執行役員イノベーション推進本部長
石原　英貴 氏

モノづくり企業において継続的な新規価値創出は喫緊の課題であり、多くの企業においてオープンイノベーション推進の取組がされているが、事業化に繋げるには課題が多い。社会に必要不可欠な事業創出に挑戦し続けておられるオムロン株式会社から石原氏をお招きし、世に先駆けてイノベーションを起こし、新しい価値を生み出す持続可能な仕組みを、蓄積したナレッジやオープンイノベーションの事例を交えながらご紹介いただいた。

「イノベーション推進本部」は、技術革新によるビジネス環境が激変する状況下でも非連続的な成長をリードする組織として設立され、事業化テーマを構想・検証するとともに、強固な土台となる組織・仕組みの構築と人財育成を担っている。次に、事業創造プロセスに関して丁寧に詳しくご説明いただくとともに、多くの為になるヒントをいただいた。テーマ検討の初期段階では、無闇に数字に拘らないこと、真の顧客価値に関して徹底的に議論することなど、大いに腹落ちする内容をお話しいただいた。予定時間を越えて質疑応答が続き、ご講演終了後も質問の長い列ができるなど、参加者の記憶に強く残る盛会であった。

モノづくりイノベーションネットワーク（MI-Net）

「中センと産技研の見学会
～正しく理解し、賢く相談し、新しい価値創出を目指す～」

日　時：令和５年 11 月 28 日
参加者：10 名

京都府中小企業技術センター（中セン）と地方独立行政法人京都市産業技術研究所（産技研）は、モノづくりイノベーションネットワーク（MI-Net）のシーズ提供元である優れた研究機関であるとともに、モノづくり企業の技術相談に乗ってくれる頼れる支援機関でもある。

新規事業創出に向けた大学との共創など新しいコトに挑戦する際、あるいは困難に直面した時に、卓越した得意技術や長年の蓄積されたノウハウを活かした技術面からの支援を受けることができる。今回、両機関の全面的な協力により、午前は中センを、午後は産技研の見学会を実施し、理解を深めることができた。

参加者に感想を聞くと、中センは培った材料試験、機器分析、精密測定技術などを駆使してあらゆる技術課題の相談に乗ってくれそう、産技研は伝統産業の技術に新しい要素を加え先進分野に挑戦するなど幅広い支援が期待できそうなど、今抱えている課題に応じて両機関との連携が想定でき、今後も継続した関係を期待したい。

好評につき、来年度も実施予定である。

業務革新研究会

［購買調達革新研究会］

本年度は、①適正在庫　②DX　③コストダウン　④コストテーブル　⑤見積り統一フォーマット という５つのテーマごとにグループ活動を行っている。

10月例会では、今年度に挙がっている５つのテーマへの現状と取組を各社紹介いただいた。その後、紹介内容について５つのテーマが活用出来ないか、グループごとに討議を行った。

［内容］（10月17日開催・抜粋）

◇各社取組み紹介

①適正在庫
・棚卸差異の取組み、戦略在庫検討など

②DX
・納期回答の自動取得、BIツールの活用など

③コストダウン
・工場内で使用する材料に関してVEを行い、適性の材料に切替CRを実施など

④コストテーブル
・購入サプライヤーに赴いて、機械の減価償却費用や原材料費、人件費などを算出。資材のコスト査定など

⑤見積り統一フォーマット
・原産国、10RoHS対応なども記載

［開発設計革新（VE）研究会］

11月例会では、後期活動としてVE実践の強化を図るため、参加企業２社から提供いただいた題材（製品・ユニット）を基にVE活動に取り組んだ。アドバイザー谷彰三氏（バリューアップ研究所　代表）からVE実施手順の機能の整理の復習を行っていただき、先月の引継ぎの機能の定義から機能の整理を行った。

［内容］（11月7日開催・抜粋）

◇機能の整理の目的

①対象テーマの果たすべき機能を明確にする
定義した個々の機能を整理し、対象テーマとして果たすべき基本的な機能を明確にする

②機能分野を明らかにする
特定の機能を目的として相互に関連の深い機能のまとまりを機能分野として明確にする

③設計の考え方を理解する
機能系統図を作成することにより、設計の考え方が一覧性をもって示され、だれもが容易に理解できる

④機能の定義の適切さを確認する
機能を整理する過程において機能の追加や修正をしながら、機能の定義の適切を確認する

第678回　京都工業クラブ

10/30

「脱炭素の切り札として期待 ～核融合発電～」

京都フュージョニアリング㈱　共同創業者　会長
長尾　　昂氏

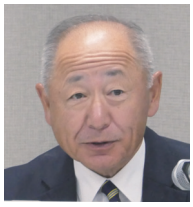
地上の太陽と言われる核融合エネルギー（フュージョンエネルギー）は「資源」であったエネルギーを「技術」へとシフトさせるものであり、脱炭素やエネルギー安全保障の点から国家戦略が策定されるなど、注目を集めている。講演は、フュージョンエネルギーの基本から始まり、国や公共機関が主導してきた開発に民間も参入する時代となり市場が拡大しているフュージョンエネルギーの動向、そのような中での同社のビジネスモデルについて紹介され、夢物語ではなくなってきた核融合について理解を深める例会となった。

第679回　京都工業クラブ

11/13

「不確実な国際情勢と求められる人材」

元 統合幕僚長
川崎重工業㈱　顧問・三菱重工業㈱　顧問
河野　克俊氏



講演ではまず、ウクライナ侵攻、中東紛争、台湾問題、米中対立等、現在の不安定さを増す世界情勢とその背景を解説された。次いで、このような先行きの見えない時代、危機においては100%の確証がなくても、リスクは覚悟の上で決断できるリーダーが求められるとし、ご自身の体験も交えながら、リーダーの条件として　①組織に対して明確な目標を示す　②目標を達成する断固たる熱意と決意を持つ（強い意志）　③その結果に対して責任を取る　という３つをあげられ、その中でも３番目が一番大事である、と述べられた。

第680回　京都工業クラブ

12/12

「2024年の経済見通し ～混沌とする世界経済～」

㈱日本総合研究所　調査部長/チーフエコノミスト
石川　智久氏

来年の世界経済見通しとして、2024年経済成長率は３%弱と幾分減速、先進国のインフレ率は軒並み2~3%に低下し世界経済はソフトランディングを果たすとの見方を紹介された。日本は現状、景気は緩やかに回復しているものの一部で足踏みしているが、今後は好調な企業収益が賃上げや設備投資拡大等の前向きな支出につながり、個人消費が増加していく“経済の好循環"定着に向かい、先行きの景気は緩やかに回復する見通し、とのこと。また今後の世界経済を見るポイントとして①世界的な人口減少社会の始まり　②世界的な人手不足　③中国経済の日本化？　④世界的な軍拡インパクト　⑤インド洋時代の始まりの５つをあげられ、混沌とする世界経済を考える上で指針となる知見を得た例会となった。

京都中央信用金庫
本店／京都市下京区四条通烏丸西入ル
www.chushin.co.jp

シリーズ 魅力ある職場づくり～会員企業の取組紹介～その③

本年度は、人材の確保や定着に欠かせない要素の一つであり生産性向上などの効果も期待できる職場の魅力向上に努めておられる会員の状況を、４回にわたってご紹介します。
第３回は株式会社洛北義肢を訪問して、お話を伺いました。　（取材日：令和５年11月20日）

株式会社洛北義肢

創　業：1973年	設　立：1982年　資本金：2,000万円
社　員：74人	住　所：京都市北区大北山原谷乾町22-16

お話を伺った皆様

取締役総務部長　　吉田　典弘 氏
クリニカルサービス部
CS課CSサポート係　主任 多田　香菜 氏

事業概要

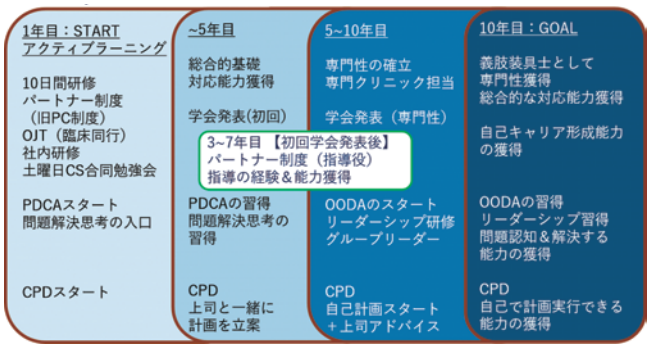
義足やコルセットなどをオーダーメイドで製作しています。一人ひとりの患者様に病院でお会いし、医師の処方に基づいて装着部分を正確に採型・採寸し、各患者様の体と病気やケガの状況に適した補助具を製作し提供させていただくことが私たちの仕事です。このうち、医師の処方に従い採型や採寸を行う業務には「義肢装具士」という国家資格が必要で、当社には現在28名の有資格者がいます。

育成制度

当社は人が関与しないとできない仕事をしているため、人材教育に力を入れています。各社員が理想の自分への道を進めるよう長期計画を立ててもらい、その実現に向けて技能習得や資格取得を後押しする教育制度を設けています。当社の人材育成・教育・能力開発の推進制度は厚生労働省からグッドキャリア企業アワード2022「イノベーション賞」として表彰されました。

①10年のパスウェイ

パスウェイを定めてキャリアパスを明確化しています。長期的な枠組みの中でキャリア形成をしてほしいという思いで、向こう10年間でこういう風に成長してくださいという目標です。その中で、管理職になりたい人もいれば、エキスパートとして活躍したい人もいるので、各社員の希望、能力や適正と業務実績を加味して次のステップに進む後押しをしています。



②CPD（Continuing Professional Development=継続的専門能力開発）制度

この制度を活用して資格取得することを推奨しています。各社員が毎年度初めに自己研鑽のための計画を立て、その達成状況を１年後に審査しています。審査に通った社員には、翌年度に技能検定の受験指導や技能練習をする場所の提供、また自己研鑽手当を支給しています。その使い道は各自の判断に任せていますが、多くの社員はセミナーや学会の参加費や交通費などに充てています。

吉田　典弘 氏

③学会発表を支援

日本リハビリテーション学会の入会要件に学会発表があり、また海外の学会でないとなかなか入手できない情報やスキルもあるので､学会での発表を推奨しています。学会で発表することは、取引先である病院のお医者さんなどが参加されていることも多く、当社と当社製品の信頼性の向上に繋がっているところもあります。

④パートナー制度

先輩社員（パートナー）が後輩社員をOJTでマンツーマン指導することで、後輩は先輩の仕事ぶりから学び、先輩は後輩に指導することを管理職からアドバイスを受けながら学ぶ制度です。新入社員には半年間パートナーをつけます。まずは基本的な事項を全部マスターできるよう､パートナー用の指導要領を作っており､パートナーから進捗状況について毎週報告を受けます。そのため、指導者側も勉強しなければならず、この学び直しが新入社員とパートナーの双方にプラスになりますし、そこで2人の絆が生まれることで会社への愛着も自然に芽生えてくると考えています。

時間外勤務制度

５、６年前に時間外勤務を減らそうということで大改革に取り組みました。病院を回る社員には、外勤中でも業務を進められるようパソコンとスマートフォンを支給しました。パソコンがあればどこでも仕事ができるし社内との通信も可能で、スマートフォンがあれば写真のやり取りもできるので、現場で難しい質問があれば上司に写真を撮って相談することもできます。これで「なるほど、時間を有効に使う方法はあるな」ということになり改革が進みました。

残業時間管理は管理職が交代でやることにしました。これにより管理職は一人ひとりの仕事をよくみてチェックできるようになり、仕事の質が向上しました。

他にも、自分の担当業務だけでなく、他の部署の仕事もできるように人材を育成しているので、残業が多い部署へ応援に行ったり、休みの人が出て人手が足りない部署に回ることもできます。

子育て支援

◇時短勤務、子供の受入

子育て世代の社員が働きやすい職場にするため、法律では３歳になるまでは２時間まで時短勤務が可能ですが、当社では、20年ほど前から、子どもを保育園に預けるため、フルタイム勤務が難しい場合は、小学校に子供さんが入られるまで活用できます。利用する社員は多く、2人目、３人目の子供も産んで、10年ぐらい時短が続いた社員もいます。そうやって、今も仕事を継続してくれています。

また、コロナ禍で学校閉鎖や学級閉鎖になった時、子供を連れて出社し、そのまま勤務も認めています。勤務中、子供たちには社内で勉強したり遊んだりしていました。また、社員忘年会にも子供を連れてきてもよいことにしています。小さな子供がいたら家に置いて行事に参加はできないので、それなら連れてきていいよってことにしました。

柔軟に対応している正社員制度

また今年から、短時間正社員制度を導入しました。結婚して兵庫県に移住する社員が、毎日出勤することはできないけれど週３回、兵庫県の家から直接病院に行って勤務する、そうした働き方でも正社員として雇用するという制度です。テレワーク勤務の社員もいるんですけど、この人は病気で出勤が難しいけれど自宅でなら仕事ができるので、自宅でできる仕事を任せています。

現場社員から一言

多田　香菜さん

私は入社前に専門知識を全く持っておらず、入社してから学びました。基礎研修の２日間で就業規則や社会人としてのルールを学び、続く10日間の研修で仕事に関する専門知識を教えていただきました。その後、現在の部署へ配属され、パートナー制度はまだなかったのでOJTで教育を受けました。医師からの装具製作のご依頼や患者様からのお問い合わせなどの電話に応対するのですが、最初の頃は答えられなくて困ることが多かったです。そんな時はその都度先輩社員に教えていただきましたが、年齢の近い社員や若い社員も多く、すごく聞きやすい環境でしたね。

当社は子供がいる社員のことをすごく考えていて、女性が働きやすい環境だなと感じています。私には子供が２人いて産休と育休を２度取得しました。それぞれ１年くらいのブランクがあったのですが、産休前と同じ仕事に戻してもらい、周りの皆さんのサポートや時短勤務制度も利用してスムーズに復帰できました。また、コロナ禍の時に学校が休みになったら子供はどうしよう、仕事に行けないかもって思っていたのですが、「子供を連れてきていいよ」と言っていただきました。夏休み、冬休み、春休みの長期休暇で家に大人が誰もいない時、子供と一緒に出勤できるのはすごく心強いです。

インタビューにご協力いただいた株式会社洛北義肢の皆様、誠にありがとうございました。

K.I.G　ゴルフ同好会（KIG）だより

▶令和5年度第3回例会（第243回例会）結果

と　き：令和5年11月22日（水）
ところ：ジャパンエースゴルフ倶楽部
参加者：20名（内 シニア７名）

優　勝　佐藤　一成氏（エンゼル工業㈱）
準優勝　勝野　正己氏（㈱エスジーエー）
３　位　金光　幸男氏（㈱カネミツ）
ＢＧ賞　木下　　豊氏（㈱エクザム）

令和５年度　京都府産業功労者表彰　ご受賞

日本電気化学㈱　　社長　小林　剛一 氏

令和５年度　京都中小企業技術大賞
優秀技術賞　ご受賞

中沼アートスクリーン㈱　（社長：中沼　　壽 氏）

会員各位とともに、心よりお祝い申し上げます。

訃報

森川　忠夫（真伍）氏
（㈱森川製作所　相談役）
（平成15年5月～令和2年9月まで　本会理事）
12月2日、ご逝去されました。
（享年82歳）

ここに、会員各位とともに謹んで哀悼の意を表します。

新入会員ご紹介

（12月6日、第342回理事会で承認されました。）

賛助会員

ユアサエムアンドビー㈱
会長　松田憲二
〒530-6127　大阪市北区中之島3-3-23
中之島ダイビル27F
TEL.06-6443-0111　FAX.06-6443-0116
電源設備の卸売販売他付帯工事

郵船ロジスティクス㈱
西日本営業本部京都支店
支店長　長谷川　健　児
〒604-8153　京都市中京区烏丸通四条上る笋町691
りそな京都ビル5階
TEL.075-320-4090　FAX.075-320-4120
貨物利用運送事業

M&Aのご相談は…
京都銀行へ
京都銀行では、企業の成長戦略や事業承継などに対する課題解決のサポートなど、お客さまのニーズに合わせてM&A に関する最適なアドバイスをさせていただきます。

M&A 詳細ページはこちら
飾らない銀行
京都銀行

コミュニティ・バンク京信
京信公式HP
一人でも多くのお客さまの「喜びの声」につながる
温かい金融をめざしてまいります。
京信のいちおし ICHIOSHI
「コミュニティ・バンク京信」は、京都信用金庫のブランドネームです。
京都市下京区四条通柳馬場東入立売東町7番地　TEL（075）211-2111

京都工業会ニュース No.417
2024年1月17日発行
発行　公益社団法人 京都工業会

〒600-8009　京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地
京都経済センター 6階
TEL.075(353)0061　FAX.075(353)0065
URL：http://www.kyokogyo.or.jp
E-mail：info@kyokogyo.or.jp